

平成26年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

※ 朝(6:00から9:59時まで)、昼(10:00から13:59まで)
 夕方(14:00から17:59まで)、夜(18:00から21:59まで)、
 深夜(22:00から1:59まで)、早朝(2:00時から5:59まで)

件数	月	発生時間	時間区分※	建物種類	感知したタイプ	出火場所	設置場所(鳴動場所)	出火原因	覚知者	原因概要	発見・通報・状況等
1	1	17:26	夕方	戸建住宅	煙式	台所	就寢室	こんろ	居住者	プロパンガステーブルの消し忘れ	居住者(81歳男性)が、台所のプロパンガステーブルに鍋を掛け、煮しめを温めていたのを忘れ、居間でテレビを見ていたところ、煮しめが焦げ発煙、寝室に設置されていた緊急通報システム連動の住宅用火災警報器(煙式)が作動、本人がその警報音に気づき、プロパンガステーブルの火を消したことから、火災に至らなかった事例である。
2	1	9:58	朝	戸建住宅	煙式	台所	就寢室	こんろ	居住者	プロパンガステーブルの消し忘れ	居住者(85歳女性)が、1階台所のプロパンガステーブルに鍋を掛け、煮魚をしていたのを忘れ、居間でテレビを見ていたところ、煮しめが焦げ発煙、寝室に設置されていた緊急通報システム連動の住宅用火災警報器(煙式)が作動、本人がその警報音に気づき、プロパンガステーブルの火を消したことから、火災に至らなかった事例である。
3	1	17:00	夕方	戸建住宅	煙式	居間	その他(不明を含む。)	ストーブ	居住者	薪ストーブ煙突の輻射熱で壁面貫通部から発火	居住者(34歳男性)が自宅2階居室にいたところ住宅用火災警報器(連動型)が作動、警報音に気づいて煙の漏れる居室を確認すると部屋中に煙が充満していた。1階に降りると茶の間にも煙が充満しており、薪ストーブ煙突の壁面貫通部から炎が出ていたので、119番通報を行った後、バケツを使って水をかけた。
4	1	18:17	夕方	戸建住宅	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	緊急通報システム	鍋の空焚き	単身高齢者宅の緊急通報システム火災センサー(煙感知器)が発報。呼びかけに回答がないため消防隊と管轄する消防団が出勤。現場先着の消防団員からの報告により家人は外出中で鍋が空焚状態になっていたが、鍋の中が焦げたのみでコンロ周辺、住宅内には焼損はなく、火災の危険性がないことを確認した。
5	1	1:00	深夜	その他	煙式	その他(調査中を含む。)	その他(不明を含む。)	たばこ	居住者	タバコの不始末	住宅に隣接するプレハブ小屋で、休憩中にタバコを吸っていたが、その後記憶を無くし、住宅用火災警報器が鳴っている音で目が覚め火災に気づき、水が入ったペットボトル等を使用し初期消火を試みたが、凍っていたため消火は出来なかった。その後、プレハブ小屋から避難し、住宅から119番通報した。
6	1	2:11	早朝	アパート・マンション等	煙式	就寢室	就寢室	たばこ	隣人	たばこの不始末	4階の居住者がトイレに起きた時警報音が聞こえたため、音が聞こえる5階に行ったところきな臭かったことから119番通報した。居住者は白煙が充満していた室内にうずくまっていたところを消防隊が発見し屋外に救出したため、負傷はなかった。
7	1	15:00	夕方	戸建住宅	煙式	居間	その他(不明を含む。)	ストーブ	居住者	ストーブの上に手ぬぐいを置いていたもの	家人が居間に設置している住宅用火災警報器の発報音に気づき確認したところ、石油ストーブ上の手ぬぐいが燃えていたため、ストーブから移動し丸めてもみ消した。その後、災害弱者緊急通報装置を使用し通報にいたった。
8	1	19:15	夜	戸建住宅	煙式	居間	その他(不明を含む。)	その他	居住者	集合煙突の接続不良	家人が2階自室で寝ており、住宅用火災警報器の発報音に気づき蛍光灯を点けたところ、自室の集合煙突目くら蓋より煙が出ていたため、119通報する。
9	1	11:20	昼	戸建住宅	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	緊急通報システム	鍋のかけ忘れ(こんろ)	一人暮らしの女性(89歳)が鍋を火にかけてそのまま放置し、鍋から煙が発生した。緊急通報システムの火災センサー(煙感知器)にて、消防覚知となる。本人と連絡が取れない為、偵察出勤する。消防隊現着時、居住者は居間でテレビを見ており住宅内は白煙が充満している状態であった。原因は豆を鍋に入れ火をかけたまま放置したもので、本人によると煙・臭い・警報音等に全く気づかなかったとのことであり、本事例は煙感知器と連動した緊急通報システムによる消防機関への通報・出勤・早期発見の奏功事例である。
10	1	9時40分頃	朝	戸建住宅	煙式	壁内	階段	ストーブ	居住者	薪ストーブの煙突の壁貫通部にめがね石を設置していなかったため、壁内部より出火した。	夫婦と娘1人の1世帯3名が居住する住宅の1階から出火、2階で寝ていた夫が階段の警報器の音に気づき、2階で寝ていた娘と1階で調理していた妻とともに屋外へ避難した。
11	1	4時28分頃	早朝	アパート・マンション等	煙式	台所	就寢室	こんろ	隣人	家人が飲酒中にガスコンロで調理していたところ、寝てしまったもの	共同住宅2階に居住する者が建物のどこからか警報器のような音を聞き、暫くたっても音が止まらないため不安になり119番通報した。消防隊が現場到着後、通報者の階下の居住者48歳男性が窓を開けて室内の煙を排煙していたところを目撃、内部進入すると居間兼台所は煙が充満しており、隣接の戸が閉まっている寝室設置の住宅用火災警報器(煙式)が鳴動しているのを確認、室内の排煙作業を行う。原因は、ガスコンロで調理中に寝てしまい、フライパン内の調理物が焦げて煙が発生したもので、ガスコンロの火は家人によって消されていたが、フライパンには残焼物が認められた。
12	1	19:20	夜	アパート・マンション等	煙式	台所	就寢室	こんろ	隣人	鍋のかけ忘れ	2階に入居(1世帯1名)している78歳女性がガスコンロで煮物を調理中、本行為を失念し外出したため、内容物(フキ)が焦げつき発煙、寝室に設置の住宅用火災警報器が発報した。隣人が外出時に警報音と異臭に気づき、消防へ通報した。内容物が炭化したのみで火災に至らなかった。

平成26年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

※ 朝(6:00から9:59時まで)、昼(10:00から13:59まで)
 夕方(14:00から17:59まで)、夜(18:00から21:59まで)、
 深夜(22:00から1:59まで)、早朝(2:00時から5:59まで)

件数	月	発生時間	時間区分※	建物種類	感知したタイプ	出火場所	設置場所(鳴動場所)	出火原因	覚知者	原因概要	発見・通報・状況等
13	2	7:49	朝	アパート・マンション等	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	緊急通報システム	鍋の空焚き	現場は町営住宅の単身高齢者宅。緊急通報システム火災センサー(煙感知器)が発報。呼びかけでも応答がないため消防隊が出動する。到着時、当事者及び関係者(協力員)が室内を排煙中であり、周囲に火炎を確認出来ず鍋底が黒焦空焚き状態である事を認め、火災には至らなかったものである。本人に身体の異常がない事を確認して状況聴取後に帰署する。
14	2	5:30	早朝	戸建住宅	煙式	就寝室	階段	たばこ	居住者	たばこの不始末	娘(34歳)が2階の寝室でたばこの吸い殻をごみ箱に捨て、1階の母親と会話後、2階の寝室に戻って見ると、ごみ箱から炎があがっているのを確認し、ほぼ同時に階段室の住宅用火災警報器のベルが鳴り出した。母親(69歳)は、ベルが鳴り出したことから台所にあった鍋に水を入れ、娘と鍋の水で消火した。(同宅の家族構成は母親と娘の2名)
15	2	0:45	深夜	アパート・マンション等	熱式	台所	台所	こんろ	隣人	鍋の空炊き(寝込んでしまった)	共同住宅1室で、居住者の女性が、都市ガスコンロを使用し、片手鍋で、レトルトのおしるこを温めている最中に、寝込んでしまい、空炊き状態になったもの。なお、住宅用火災警報器の警報音にも気が付かなかった。通報者は、隣室から何かの警報音が聞こえたため通報したものである。初期消火については、通報者は施錠されていたため入室できず、実施されていない。居住者は寝込んでおり実施していない。消防隊居室内進入時、居間及び台所付近で白煙が充満しており、居住者により、ガスコック閉止、窓を開放したものである。
16	2	17時00分頃	夕方	戸建住宅	煙式	台所	台所	電気	居住者	電子レンジの取扱い不注意	家人(66歳男性)が、使用していた洗濯機から煙が発生したと思い、消防に通報した。消防隊到着後、室内は窓を開けて排煙されており、室内に煙は認められないが、焦げくさい臭いが漂っていた。洗濯機のコンセントは抜かれており、洗濯機本体及び洗濯物に異常は認められないが、台所の電子レンジ内に半分程度、焦げている菓子パンを発見する。原因は、家人が菓子パンを温めるため、電子レンジに入れてスイッチを入れた後、温めている事を忘れ、その場を離れたため菓子パンが焦げて発煙し、台所付近に設置の住宅用火災警報器が鳴動した。なお、警報音に気付き台所付近の煙を確認したため、使用していた洗濯機のコンセントを抜いた後で、電子レンジのコンセントも抜いていた事を家人から聴取する。
17	2	17:09	夕方	戸建住宅	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	鍋の空焚き	居住者92歳女性が、プロパンガステーブルで味噌汁を温めていたのを忘れ、台所に設置していた警報器(煙式)が作動し、警報音により気付きガステーブルの火を消したため鍋の味噌汁を焦がしただけで、火災には至らなかった。
18	2	19:23	夜	戸建住宅	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	プロパンガステーブルの消し忘れ	居住者(81歳男性)が、台所の都市ガステーブルに鍋を掛け、味噌汁を温めていたのを忘れ、居間で寝込んでしまったところ、鍋の中の水分が蒸発したため具材が焦げて発煙、台所に設置されていた住宅用火災警報器(煙式)が作動、本人がその警報音に気付き、都市ガステーブルの火を消したことから、火災に至らなかった事例である。なお、覚知状況は、居住者からの119番通報によるものである。
19	2	13:00	昼	戸建住宅	煙式	その他(調査中を含む。)	その他(不明を含む。)	ストーブ	居住者	2階電気ストーブの上に衣類が落ちて燃えた。	20代女性が祖父の家で昼食を共にし、食事の後片づけを1階台所でしていたところ、2階で住宅用火災警報器が鳴っていることに気付く。確認しようと階段を上がると、ドアにはめられたすりガラスの向こうが赤くなり、燃えているように見える部屋をみつけたので、1階茶の間にいた祖父に火災である旨を伝え、119番通報を行う。知らせを聞いた祖父が2階に行き、部屋に入ると、電気ストーブとその上に落ちて重なった衣類が燃えていたので、近くにあった毛布で全体を覆って消火を行う。
20	3	15:55	夕方	戸建住宅	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	居住者	鍋のかけ忘れ(空焚)	一人暮らしの女性(91歳)が、夕食の支度のため台所のガスコンロで鍋に火をかけ加熱していたのを忘れ、空焚きとなり発煙し、居間に設置している緊急通報システムの火災センサー(煙感知器)が作動した。その後、異臭に気付き台所を確認すると煙が充満していたので、自分でガスコンロのスイッチを切ったため、鍋の内容物が焦げただけで火災には至らなかったものである。尚、居住者は視力の低下と難聴により、煙の発生及び警報音に気付くことができず、異臭により発見した事例である。
21	3	8:41	朝	アパート・マンション等	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	鍋のかけ忘れ(空焚き)	通報者(管理会社社員)から「402号室の入居者から302号室で何かが鳴っているとのことで確認したところ、煙が充満し煙感知器が鳴っていた。火元が分からない」との119番通報。消防隊が302号室を確認したところ、台所のガステーブル上にカセットコンロが置いてあり、そのコンロ上に内容物の焦げた両手鍋があった(鍋の空焚き)。なお、カセットボンベを使い切ったため消火しており、火災現象はなかった。居住者は、鍋を温めようと点火したが忘れてしまい、そのまま、病院に行ってしまった。

平成26年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

※ 朝(6:00から9:59時まで)、昼(10:00から13:59まで)
 夕方(14:00から17:59まで)、夜(18:00から21:59まで)、
 深夜(22:00から1:59まで)、早朝(2:00時から5:59まで)

件数	月	発生時間	時間区分※	建物種類	感知したタイプ	出火場所	設置場所(鳴動場所)	出火原因	覚知者	原因概要	発見・通報・状況等
33	7	6:20	朝	木造平屋建て一般住宅	熱式	その他(調査中を含む。)	その他(不明を含む。)	不明	緊急通報システム	不明	緊急通報システムの火災センサー(熱感知器)にて消防覚知。電話口から住人の「火事だ。」という声が聞こえたため、通信員が住人に避難を促し逃げ遅れることなく避難に至った事例である。
34	7	17時00分頃	夕方	アパート・マンション等	煙式	台所	台所	こんろ	隣人	ガステーブルの消し忘れ	共同住宅の共有部分で居住者が罹災室からの住宅用火災警報器の鳴動に気付き、呼び鈴を鳴らすも応答がないため、外から確認すると罹災室の台所から火が出ているのを発見し119番通報する。
35	7	0:42	深夜	共同住宅	煙式	台所	就寝室	こんろ	居住者	鍋の空焚き	居住者(42歳男性)が都市ガス1口コンロで煮物を温めていたのを忘れて眠ってしまったが、寝室に設置していた住宅用火災警報器が発報したことで目を覚まし、コンロの火を消したため鍋の煮物を焦がしただけで、火災には至らなかった。
36	7	20:10	夜	戸建住宅	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	コンロの消し忘れ	自宅で焼き魚をした後に、魚焼きグリルの火を消し忘れたため、グリル内の油かすに着火したものの、住宅用火災警報器が鳴動したため、119番通報し、コンロの火を消したところ消防隊到着前に消火されたもの。
37	8	6:20頃	朝	戸建住宅	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	居住者	ガスコンロの取扱い不注意	家人が、ガスコンロで朝食を調理するため鍋をかけ点火し、片付けのためその場を離れて、ガスコンロの火により鍋が熱せられ内容物が焦げて煙が発生した。居間に設置していた住警器が作動し警報音に気付いた家人が付近を見渡すと台所から居間にかけて煙が充満しているため、火事だと思い119番通報したもの。
38	8	18:02	夜	戸建住宅	煙式	台所	台所	こんろ	通行人	コンロの消し忘れ	通行人が住宅用火災警報器の音が聞こえる方向を見ると、一般住宅2階窓から煙が噴出しているのを発見し、玄関が施錠されベルを鳴らすも応答がないため119番通報した。コンロで温めていた鍋の内容物が焦げたことで住宅用火災警報器が鳴動したもの(鍋の空焚き)。コンロについては、自動消火しており居住者については、近所に出かけていたもの。
39	8	6:23	朝	戸建住宅	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	ガスコンロに鍋をかけたままその場を離れる	家人(84歳女性)が、調理の為ガスコンロに鍋を掛けたまま洗濯物を干しにその場を離れたことで鍋が放置状態となり、内容物が焦げて発煙し台所に設置していた緊急通報システムの火災センサー(煙式)が作動し消防覚知、応答があり家人は鍋をガスコンロから取り除き火災の危険性はないとこのことが現地確認に向かう。 家人は2階で洗濯物を干していたところ警報音に気付き、1階に降りると煙が充満しているのを発見し鍋をガスコンロから取り除いたことにより、火災に至らなかったものである。
40	8	20:19	夜	アパート・マンション等	煙式	就寝室	就寝室	ストーブ	隣人	ストーブの上にタオル等を置いていたもの	近隣住民である通報者が、隣室の112号室に来訪した際に、1階共有廊下で111号室から警報音が聞こえ、きな臭く、ドアを開放したところ、白煙が充満していたので119番通報した。 通報者その他2名が室内に座っていた111号室の単身高齢男性居住者を屋外に救出した。 初期消火は、通報者その他2名が炎が立ち上がっていたストーブに、バケツリレーで水道水をかけてほぼ消火した。 原因は居住者男性が、タオル等が天板に乗ったままのストーブに点火し火災化したものである。
41	8	7:45	朝	戸建住宅	煙式	台所	台所	こんろ	居住者	電気コンロに鍋をかけたままその場を離れる	家人(82歳女性)が、調理の為電気調理器に鍋を掛けたまま居間で新聞を読んでいたことで鍋が放置状態となり、内容物が焦げて発煙し台所に設置していた緊急通報システムの火災センサー(煙式)が作動し消防覚知。応答があり家人は鍋を電気調理器から取り除き換気を行う。火災の危険性はないとこのことが現地確認に向かう。
42	8	11:45	昼	戸建住宅	煙式	台所	その他(不明を含む。)	こんろ	居住者	ガスコンロ魚焼きグリル内に溜まっていた魚の脂が何らかの原因で加熱され発火したもの	ガスコンロ魚焼きで魚を焼き、コンロを消火して食事をしていたところ、居間に設置してある住宅用火災警報器が鳴動した。 台所を確認したところ、魚焼きグリル窓から炎が見え黒煙が出ていたため、自宅にあった消火器で消火し、その後、119番通報した。
43	8	2:20	早朝	戸建住宅	煙式	居間	就寝室	調査中	居住者	調査中	居住者は2人暮らしの夫婦で夫は視力の無い家庭であり共に2階の各部屋で就寝中であつた。 住宅用火災警報器(煙・ワイヤレス連動式)の警報音で目を覚まし、夫を誘導し1階玄関からの避難を考え階段に向かったが熱気で避難できず、電話子機を持って2階ベランダへ避難し警察へ通報、警察より通報を受けた消防隊が到着すると、1階の居間は燃焼中で2階ベランダで手を振る要救助者を発見、梯子にて両名を救出後1階部分の消火に至る。 本事案は、連動型の住宅用火災警報器で1階の煙で作動した感知器が2階の各寝室に連動して火災を早期覚知できた事により逃げ遅れによる死傷者を防ぐ事ができた事例である。

平成26年 北海道内における住宅用火災警報器の奏功事例

※ 朝(6:00から9:59時まで)、昼(10:00から13:59まで)
 夕方(14:00から17:59まで)、夜(18:00から21:59まで)、
 深夜(22:00から1:59まで)、早朝(2:00時から5:59まで)

件数	月	発生時間	時間区分※	建物種類	感知したタイプ	出火場所	設置場所(鳴動場所)	出火原因	覚知者	原因概要	発見・通報・状況等
44	9	10:04	朝	木造平屋建て長屋式1棟4戸(公共住宅)	煙式	台所	就寢室	こんろ	居住者	鍋のかけ忘れ	緊急通報システムの火災センサー(煙感知器)にて消防覚知。鍋を焦がし煙が充満したことであったが、確認の為に先攻車隊が出動する。状況を聴取すると煮物を作っていてそのまま放置した所、煙が発生し警報音が鳴ったことで気が付き、火を止めたとのこと。
45	9	17:00	夕方	戸建住宅	煙式	台所	就寢室	こんろ	居住者	プロパンガステーブルの消し忘れ	居住者がガスコンロの魚焼きグリルで魚を焼き終わり、火を消すのを忘れ食事をしていたところ、ガスコンロから煙が発生し寢室に設置している住宅用火災警報器(煙式)が鳴動した。ガスコンロから煙が発生していることを確認しヤカンで水をかけ119番通報した。早期発見し消火したため火災に至らなかったもの。
46	9	8:12	朝	戸建住宅	煙式	台所	階段	こんろ	居住者	鍋のかけ忘れ	居住者の女性がガスこんろを使用し片手鍋で煮ものを温めようと点火し、居間に座っていたところ、階段室に設置していた住宅用火災警報器(煙感知器)の音声が聞こえ、室内に充満している煙に気づき、北西隣居住する娘宅に助けを求めたものである。119番通報は北西隣居住の娘からで、状況を確認しガスこんろの火を消したのは孫(高校生)である。